# 図書館情報学橘会会報 第17号(通号23号)

2015年3月発行 発行者 社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

# 図書館学を社会学に高めた巨星 藤野幸雄先生 逝く

図書館情報学橘会会長 森 茜

#### 出発はロシア語

私が初めて藤野幸雄先生の名前を知ったのは、 1980年代半ばのことだった。その頃私は、約20 年近く続いた行政の仕事から再び図書館の仕事に 戻った直後だった。図書館についての知識は亡失 してしまい、藤野幸雄が何者かを知らなかった。 幼い子供の養育と仕事との両立に明け暮れていた。 丁度、ソヴィエト連邦がゴルバチョフのペレスト ロイカ路線で鉄のカーテンの雪解けの始まる頃だ。 我が国にも、ロシアの文化や芸術が勢いよく流れ 込む兆しの見えた頃だ。東京にソ連邦文化省との 提携による本格的なバレエ学校が開講した。幼稚 園を終わったばかりの娘が、バレエを習いたいと 言い出したので、そのバレエ学校へ通わせること にした。そこで出会ったのが、藤野幸雄著「春の 祭典―ロシア・バレー団の人々」だった。この書 は、他のバレエ紹介本とは一味も二味も違ってい た。帝政ロシアのエカテリーナ女帝の女子孤児教 育としてスタートしたバレエ教育が名振付師ディ アギレフの時代を経てヨーロッパに逆席巻するバ レエ芸術へと花開き、そしてまたソ連邦時代にな って窮屈になっていく過程を、一大歴史パノラマ を見るような感じで教えてくれた。私はすっかり ロシア・バレエのとりこになり、以来、ボリショ イ、レニングラード、モリセイエフ、モスクワ音 楽劇場、等々、ロシアからバレエ団が来るたびに 大枚をはたいて観劇した。

藤野幸雄さんの原点は、ロシア語なのだ。

# 図書館情報大学副学長

私が本物の藤野幸雄先生に会ったのは、1998年 に事務局長としてつくば市春日にある図書館情報 大学に赴任したときだ。その時、学長は吉田政幸 氏、副学長は藤野幸雄・山本毅雄の両氏。藤野幸 雄氏は、すでに文科系図書館学研究者として押し も押されもしない泰斗になっておられた。図書館情報大学は文科系図書館研究者と情報系図書館研究者とがしのぎを削っているときで、いまだ新しい図書館情報学の像を結びえない頃だった。しかし、藤野先生の図書・図書館文化史は、他に追随を許さないほど抜きん出た業績を誇っておられた。世界中の図書館を縦横無尽に切り捌き、人類4千年の歴史を図書館の軸で通観する歴史観は壮観そのものだった。藤野さんの歴史観は、やっぱりロシアなのだ。雄大で万化に富んだ歴史そのものを骨の髄まで知っていたのだ。

#### 図書館学を社会学の域に高めた先駆者

「歴史はシュメールから始まった」というのが 先生の口癖だった。上背のある細身の体に、とて も長い手足をもち、両手足を空に泳がせるように 身振り手振りを駆使して、酔ってないときにも酔 っぱらっているかと思うくらいの壮言で世界の図 書館を説く情熱は、誰も及ばない。藤野先生が開 拓された図書館文化史という概念は、従来、えて してアメリカ型の図書館方法論に傾きがちだった 我が国の図書館学を社会学の域にまで高めた。そ の功績は、その後の図書館学の在り方に大きな影 響を与え、何人かの優秀な後輩研究者を育てた。

藤野先生は、職人養成が趣旨である図書館職員 養成所の卒業生であるが、図書館学を社会学へと 高められた図書館学改革の第1世代だった。しか し、世界を席巻する図書館大衆化の波は、そのよ うな図書館学だけで終わらせてくれなかった。次 の世代では、図書館学と経済学を融合するような 研究者が現れ、図書館学は社会科学へと発達し、 そして今や、21世紀の情報化現象は、図書館学を 情報科学の中で議論する時代へと進めている。 頭の柔軟な先生だ。これをしも肯定するだろう。

早く逝き過ぎた先達の冥福を心から祈る。

# ◇ 永年のご薫陶ありがとうございました ◇

平成27年3月をもって松縄正登先生がご定年となり、鎮目浩輔先生がご退職されます。 有難うございました。松縄先生にメッセージをご寄稿いただきました。

松縄 正登 教授 【専門】知的財産法、特許法、著作権法

鎮目 浩輔 教授 【専門】機械学習、量子情報処理

2222

## 退職にあたって

筑波大学図書館情報メディア系 教授 松縄 正登

このたび本年3月をもって定年退職することになり ました。本学図書館情報メディア研究科に 2009 年 4 月に着任してから6年間という短い間でしたが、皆様 には大変お世話になりました。私は1976年3月に理 工系の大学院修士課程を修了後、特許庁で特許審査官、 審判長、審決取消訴訟代理人などを 33 年間務めた後 本学に着任しました。本学では、学生に対する教育、 知的財産に関する研究の他、系・研究科等の運営に関 する業務などいろいろなことを経験させていただきま した。特許庁在籍時代は、特許出願の審査、審判事件 の審理や訴訟案件への対応などの業務に明け暮れる 日々を送っていました。その業務のなかには、海外か らの研修生や特許庁審査・審判官の研修担当や国際特 許分類(IPC)の管理業務などもありました。他大学 での講師歴もありますが、本格的に教育・研究を行っ たのは本学が初めてです。講義の方法・内容や卒研・ 修論・博論の指導方法など、先輩の先生方や職員の皆 様にご教示賜り、大変お世話になりました。この場を お借りしてお礼申し上げます。

ところで、近年、科学技術の発展が急速に進むなか、 知的財産権の分野では、法的な対応がその進展に追い つかない状況にあります。現在ある知的財産法は、デ ジタル技術のなかったアナログ中心の明治の時代にそ のほとんどが制定されたものであるため、現在のデジ タル時代には対応しにくいものとなっています。毎年 のように行われる法改正による条文改正や、法運用の 見直しなどにより、法秩序を維持している状況ですが、 いまだに適切なものになっているとはいえません。そ こで、まったく新しい法理念に基づいたデジタル知的 財産法を構築すべきとの意見も多く出されています。 そのなかで、私は社会における法秩序を保つためには、

①法制度による規制強化だけでは十分ではなく、②国 民全体の社会倫理的なモラル向上や、③DRM をはじ めとするデジタル管理技術の三者が一体となってその 対策を進めるべきであり、それによりデジタル社会の 健全な発展が見込めるものと考えています。技術的に 新しい著作権管理技術を開発してもすぐに破られてし まうという悪循環を阻止するためにも、法規制した上 で、違法行為はしないという全体的なモラルの向上と、 必要なものについては適切な著作権管理技術を開発し 装着していくということが求められているものと思わ れます。また、最近はパテント・トロール (Patent Troll) と呼ばれる特許管理会社(特に米国)による金融ビジ ネスが、休眠特許などを安価に買い上げその特許を基 に特許侵害訴訟を提起し、何億円もの損害賠償を世界 中の各社に請求する事件が多発しています。これは現 行法では違法行為ではないため規制できないのが現実 であり、早急な対応が求められています。そして、著 作権関係では、国際的な著作権侵害が問題となってい ます。インターネット上に公開された個人等の web サ イトから、作品の画像を複製し自社の製品(例えば、 ブラウスの柄に使用するなど)として販売するような 違法行為が公然と行われています。法社会には属地主 義の原則があり、当該国の法律は当該国の領域内でし か適用されないのが原則です。そこで、上記のような 侵害行為について根本的な取り締まりを行うことがで きない状況です。これについても早急にその解決策を 立てることが必要です。最近の話題について触れまし たが、今後の研究などによりこれらの課題が解決され ることを願う次第です。

皆様のますますのご発展を祈念いたします。ありが とうございました。

# センセイッ!! ソチラはいかが

桃山学院大学経営学部教授 山本 順一

2014年11月16日午前0時6分、深夜作業をしていたわたしのところに、ご子息で阪南大学の教員をされている藤野寛之先生から、'ご報告になります(藤野)'という標題のメールを受け取りました。本文には、「父藤野幸雄が本日亡くなりました。83歳でした。葬儀は家族葬で行います」と記されていました。若干のやりとりの後、大先生の期待に応えられなかった不肖の弟子のひとりとして、弔電をうつことにしました。

「藤野先生の突然の訃報に接し、言葉がありません。いまから 30 年前、創設された大学院に入学して以来、先生の最初の弟子として教えを受けてきました。学部や大学院での教育のかたわら、先生を目標に少しずつ勉強を続けてきたのですが、まだ教わるべきことはたくさん残されています。先生もわたしも大好きなアルコールを呑みながら、先生の肉声で語ってほしかったのですが、わたしが神の国に赴くまでお預けになってしまいました。そのときを楽しみにしております。旅行好きの先生の旅立ちを僻遠の地からお見送りいたします。 やまもと」

この国の図書館情報学というマイナーな学問領域に おいて、恩師藤野幸雄先生はきわめて偉大な存在でし た。すでにいくつかの業界のメディアに掲載されてい る追悼文からもそのことは明らかです。図書館情報大 学の教員集団のなかで同じ大講座にいられた後輩の寺 田光孝先生が書かれた「追悼・藤野幸雄先生」(『図書 館文化史研究会ニューズレター』131号, 2015.2)に、 簡潔ながら大先生のライブラリアン、図書館情報学研 究者としての表の顔はほぼ過不足なく書きこまれてい ます。2015年3月22日に大先生を偲ぶ会が東京で開 催されることになっており、そこで配布される小冊子 1には、ご子息の眼に映った大先生の姿が描かれていま す (藤野寛之「研究者藤野幸雄との出会い」)。 また、そ の小冊子には高山正也先生の「藤野幸雄氏を偲んで」 という小文も掲載され、(国際文化会館では)「いつも ワイシャツの腕まくりをして、ヒソヒソと声を潜めて 連絡の会話をして、館務に勤しんで」いた大先生が、 図書館情報大学の教員となってからは「おおっぴらに 酒を愛し、持論を大声で語られる姿に接して、これが あの藤野さんかと一瞬わが目を疑ったことを覚えてい る」と記されています。

高山先生の文章のこのところに、藤野大先生が斯学

<sup>1</sup> 『藤野幸雄先生を偲ぶ会 (冊子)』 (藤野幸雄先生を偲ぶ 会, 2015.3) において果たした大きな歴史的役割が端的に示されて いるのです。高山先生の追悼文にもご自身が国際文化 会館図書室の歴代の少なくない学生アシスタントのひ とりであったと述べられていますが、ほかにも学生ア シスタントとして澁川雅俊先生がいられます。澁川先 生は、丸善の保有していた『42行聖書』を早稲田の手 に落ちることを阻止し、見事に取引価格を値切ったう えで慶応の至宝のひとつに加えさせた立役者としても 知られています。その澁川先生が書かれた「小さな躯 の大きなライブラリアン:福田直美さんとJLS | 2とい う福田女史の追悼文がネットにあげられています。こ れらのいくつかの文章をみれば、第二次世界大戦後、 アメリカの占領政策として後に慶応大学文学部図書 館・情報学科となるジャパンライブラリースクールが 設置されたわけですが、そこは福田直美さんとその部 下であった藤野大先生たちがいた、アメリカを背後に もつ国際文化会館と実質的に密接不可分な関係をもっ ていたのです。そればかりか、国立国会図書館の設立 をはじめ戦後の日本の図書館界の再設計にも小さくな い影響を与えていたのです。

そのあたりの事情をわきまえた藤野大先生が中毒症状をも隠すことなく、アメリカと直接の関係はない、ご自身の母校である図書館職員養成所の後身である図書館情報大学にやがて教師として帰還され、おおっぴらにわたしたちと酒を酌み交わしながら、少なくないトピックを当事者のひとりとして語られ、アメリカを含む外国と日本の図書館と図書館情報学を論じてくださったのです。'ワイシャツの腕まくり'は変わることはありませんでしたが、ヒソヒソと声を潜めて話されることはありませんでした。ときに外国人に話された先生の英語は、アメリカのバスの中で聞かされる庶民の英語のように、最後列で話されていても最前列まで確実に聴き取れるような分かりやすい英語でした。

ここには紙幅の制約から書きたいことのほんの一端 しか書いていません。読者の方は、まだお元気な時期 にご自身で書かれた『77年の回顧:喜寿を迎えて』(藤 野先生の喜寿を祝う会,2008.7)をお読みください。

センセイッ!! ソチラ(天国 or 地獄)はいかが。近いうちにお会いすることになるでしょうが、そのときには一緒に、エルビス・プレスリーの真似をして、My Way!!を唄うことにしませんか。

んについては、小出いずみ「福田直美と 1959 年のアメリカ 図書館研究調査団」(今まど子・高山正也編著『現代日本の 図書館構想:戦後改革とその展開』勉誠出版,2013 所収) が有益です。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> web.sfc.keio.ac.jp/~philobib/philobiblon/essey/naomi.doc 藤野大先生を育てられたかつての職場の上司、福田直美さ

# 藤野先生へ 教え子より感謝をこめて

藤野先生は、私が大学院生のときに副学長になられたので、私たちが最後のゼミ生になりました。そのせいか母校を離れても、先生とのご縁は長く続きました。

藤野先生はお酒が好きで、ゼミの後など「3 時過ぎたら飲んでもいいんだ」とおっしゃるので、私たち院生は研究室で一緒にお酒を飲みました。自分が大学の教員になってみると、研究室で学生と飲むなんて考えられないのですが、当時の図書館情報大学では珍しいことではありませんでした。

私は自らの意志で就職活動をせず、大学院に進みました。そのくせ進学してみると、就職した友人たちにおいて行かれたような気がして、しばらくすると気が滅入り、研究も進まなくなりました。

藤野先生は私にドイツへ行くよう勧めました。当時、私は先生のことをこっそり、「人買い」と言っていました。先生の伝手で海外の図書館に働きに行く学生が何人もいたからです。私のドイツ語の成績はドイツで暮らすなんてとんでもないというレベルでしたが、その時の私は魔が差したようにドイツに行く決心をしました。

1年間、ドイツの大学の小さな図書室で、日本の大学 紀要や社史の整理をし、日本語を学んで日本に留学し ようとしている学生たちと接して過ごしました。海を 越え、時を越えて日本から伝わった資料を抱えた小さ な図書室での日々。院生生活で迷子になっていた私は、 ようやく出口を見つけた思いでした。

帰国後は修士論文を仕上げ、修了後にドイツへ戻る つもりでした。ところが、藤野先生から国際交流基金 日本語国際センターの司書の採用試験を受けるように 言われました。私は仕方なく、お世話になっている先 生の言うままに応募し、面接を受けました。受かるは ずがないと思っていたのです。

採用され、就職するまで、私は藤野先生が国際交流 基金の事業に深くかかわっていることを理解していま せんでした。少し考えてみれば、私のドイツへの渡航 費は基金の補助を受けていましたし、当時先生は基金 近畿大学短期大学部准教授 川原 亜希世

の仕事で何度も海外の図書館に行っていたのですから、 気づかない方がおかしかったのですが。

採用が決まり、私は日本語教育の専門図書館の司書 になりました。主な利用者は外国人の日本語教師です。 大学で学んだ知識とドイツでの経験を活かし、司書と して3年間働きました。

3 年目に藤野先生から、金沢の短大の司書課程の教員にならないかと言われました。私は金沢の短大に移り、3 年間働きました。

3年目、先生に転職の相談にうかがいました。先生は 以前から私に「大野(旧姓)も結婚して、男の一人ぐら い面倒をみろ」とおっしゃっていました。そこで私は、 面倒をみる相手ができたので、関西に仕事がないだろ うか、と相談に行ったのです。先生はしばらく金沢に 留まるように言いましたが、私は自分で転職先を確保 して結婚し、関西に移り住みました。さすがに数年は 先生とお会いする勇気がありませんでしたが、先生の 古稀のお祝いの会には出席しました。それが先生にお 会いした最後でした。

藤野先生は多くの著書や論文を書かれ、外国語にご 堪能でした。私は院生生活で迷って研究が止まってし まった果てに、ドイツ語ができないままドイツに行き、 話せるようにもならずに帰ってきてしまうような学生 でした。先生はいつも、ごちゃごちゃ言わずに私を現 場に放り込んで、世界とつながる図書館の姿を見せて くださいました。そうやって、私を育ててくださいま した。

先生がカラオケで歌われた中島みゆきの『時代』の歌詞のように、時代はまわります。昨年私の勧めで教え子が、ケルンの日本文化会館の図書館へ1年間働きに行きました。うれしくて、うれしくて、教え子よりも私の方がずっとうれしかったと思います。そのことを先生にお伝えしておけばよかったと、今になって後悔しています。

藤野先生、長い間本当にどうもありがとうございま した。

## 藤野先生の生涯と図書館情報大学

藤野幸雄先生は、昭和6(1931)年に群馬県前橋市に生まれ、東京外国語大学ロシア語科、文部省図書館職員養成所を卒業後、(財)国際文化会館に勤務。昭和54(1979)年に図書館短期大学教授に就任、平成11(1999)年に図書館情報大学を退職、この間、平成5(1993)年からは副学長を務められた。平成26(2014)年11月15日に逝去され、瑞宝小綬章を受章した。

平成 20(1998)年の喜寿のお祝いで発行された冊子『七十七年の回顧』では、郷土、戦中戦後の時代、図書館と世界への思いなどを綴られている。その中から、図書館情報大学の創立から退職まで、そして筑波大学との統合について書かれた文章から、ご家族の了解を得て、紙数の許す範囲で引用紹介する。

筑波に図書館情報大学ができて、第1回の入学式が行われたのは昭和55年(1990年)4月でしたが、わたしはその2年前から前身である図書館短期大学に赴任していましたし、さらにその前年には東京大学大学院教育学研究科の非常勤講師を務めていました。すなわち、筑波で開学する以前に、すでに「設置審」により新大学への採用が決まっていたのであり、短期大学はそれを受けて教授会で任用を決定してくれたことになります。世田谷の図書館短大ではその後の2年を教えました。

大学の 1 期生を受け入れた時、キャンパスはいまだ建設途上にありました。ようやく教室棟が出来、学生寮と食堂は完成していましたが、教官室は共同利用で、講堂もなかったのです。もっとも教官の数は 4 年間で 4 分の 1 ずつが増えていったのであり、外部の大学からの赴任を予定されていた者からは、自分の赴任がどうして「後回しなのだ」と憤る者もいたほどでした。大学名は設置審議会のころには「図書館大学」という仮称であり、この名称を記した銅板は近くに出来た松見公園の通称「栓抜きタワー」の展望台に取り付けられていました。現在まだあるかどうかは知りません。開学年にはすでに図書館情報大学になっていたので、「図書館情報学」という学問がアメリカをはじめ日本で定着したのは 1970 年代の末か 1980 年代の初頭であったろうと思います。

筑波はいまだ交通が不便であり、学生はほぼ全員が 近辺に下宿していました。日本ではめずらしいキャンパ ス型の大学であり、学生寮も1学年分は収容できるほど のものが建っていました。教官の多くも近辺の公務員宿 舎にすんでいました。研究機関も集中していたので、こ の土地では「人を見たら公務員と思え」とまで言われて いました。こうした状況のなかで、学生たちとの交流は 密接でした。学生数も初年度は 120 名、それが五つの 大講座に所属していましたから、授業の規模も必修科 目をのぞけばさして大きくはなく、教育には適度であった と見なしてよかったと思います。

副学長を務められた時代、そして、その後の筑波大 学との統合については、

大学の運営の一端を任されるようになった 1995 年から 2002 年までは、日本がまさに「転落」とまではいかないにせよ、「波瀾」の時代に突入した時期でした。その第一の理由は「高齢化・少子化」にあり、特に教育界はその対処に明け暮れ、ついには大学そのものの存続が危うくさえなってきていました。図書館情報大学が筑波大学に 2003 年に合併・吸収されたのも、こうした時代の流れのなかの出来事であり、それは、この変動を先取りした結果かもしれません。

として、少子化・グローバル化の時代背景を挙げた 後、次のように結ばれている。

図書館情報大学が姿を消したのも、日本が巻きこまれている変動の最中のことであり、この趨勢は防ぎきれないものであったかもしれません。わたしはその時にはすでに定年後で身を引いていたが、任期が長引いていたらどんな態度をとっていたか分かりましょう。時代の流れに抵抗してどうなるものでもないでしょうが、少なくとも、図書館学を専攻し、その教育にいささかは尽くしてきた者にとっては、その名が消えたのは残念です。

研究者としては、世界各国語に通じ60種を超える著書を著された。図書館情報学のみならず、歴史、音楽、文学と幅広い分野にわたっている。残されたご著書を通じてその大きな足跡をしのびたい。

文責・城谷浩 [図情大 昭和59]



## 藤野先生著書一覧

『大英博物館』(1975 年)から『日本図書館史年表』(2012)までの著書(図書)65 点を分野別、各分野内は出版年月順に収録した。 単著以外の、共著、訳、執筆(分担執筆)などは、タイトルの後に()で区別した。

『七十七年の回顧』掲載の著作目録(図書)に2008年以降の著書を調査・追加した。

#### ●図書館学

- ◇図書館学序説(訳)日本図書館協会 1978.4
- ◇国立国会図書館―その理想と現実 教育社 1978.10
- ◇図書館の社会学的基盤 (訳) 日本図書館協会 1978.11
- ◇人間と文化―教養講演集 (執筆) 19 三愛会 1979.12
- ◇書誌(訳) 白水社(文庫クセジュ) 1981.3
- ◇索引一作成の理論と実際 (訳) 日外アソシエーツ 1981.4
- ◇図書館学の研究と教育(執筆)日外アソシエーツ 1982.10
- ◇新・図書館学ハンドブック (共編) 雄山閣出版 1984.6
- ◇図書館学入門 (共著) 有斐閣双書 1985.7
- ◇日本大百科全書 17(「図書館」関係項目)(執筆) 小学館 1987.9
- ◇アメリカ図書館法 (監訳) 日本図書館協会 1988.12
- ◇図書館学入門 改訂版 (共著) 有斐閣双書 1989.2
- ◇資料・図書館・図書館員─30 篇のエッセイ 日外アソシエ ーツ 1994.3
- ◇転換期における図書館の課題と歴史─石井敦先生古稀記 念論集(執筆) 緑蔭書房 1995.9
- ◇図書館情報学入門 (共著) 有斐閣アルマ 1997.12
- ◇現代の図書館─図書館概説 勉誠社 1998.3
- ◇知の銀河系─図書館情報大学講演録 第1集 (執筆) 図書館情報大学 1998.6
- ◇知の銀河系─図書館情報大学講演録 第2集 (執筆) 図書館情報大学 1998.7
- ◇アメリカ議会図書館─世界最大の情報センター 中公新書 1998.7
- ◇知の銀河系─図書館情報大学講演録 第3集 (執筆) 図書館情報大学 1999.6
- ◇知の銀河系─図書館情報大学講演録 第6集 (執筆) 図書館情報大学 2000.3
- ◇図書館へのこだわり 勉誠新書 2001.7
- ◇図書館情報学叢書─新集知の銀河系 3 (執筆) 日本図書館協会 2004.8
- ◇図書館情報学叢書─新集知の銀河系 4 (執筆) 日本図書 館協会 2004.8
- ◇図書館設立のための助言 (監訳) 金沢文圃閣 2006.9
- ◇ピアス・バトラー図書館学/印刷史著作集 (編訳) 金沢文圃 閣 2008.3
- ◇図書館この素晴らしき世界 勉誠出版 2008.12

## ●図書館史分野

- ◇図書館史要説 (訳) 日外アソシエーツ 1980.5
- ◇図書館を育てた人々 外国編1 アメリカ (執筆) 日本図書館協会 1984.10
- ◇図書及び図書館史 (執筆) 東京書籍 1988.8
- ◇図書館情報学用語辞典 (執筆) 丸善 1997.9
- ◇図書館の歴史 (共著) 日外アソシエーツ 1994.3
- ◇図書館情報学ハンドブック 第2版 (執筆) 丸善 1999.3
- ◇知の銀河系─図書館情報大学講演録 第4集 (執筆) 図書館情報大学 1999.6
- ◇図書館史・総説 勉誠出版 1999.10
- ◇図書館情報学叢書―新集知の銀河系 2(執筆) 日本図書

#### 館協会 2004.8

- ◇世界の図書館百科 (編著) 日外アソシエーツ 2006.3
- ◇図書館分類=書誌分類の歴史 第1巻 (訳) 金沢文圃閣 2007.1
- ◇日本図書館文化史研究会 20 周年記念研究集会·総会予稿集 (執筆) 日本図書館文化史研究会 2002.9
- ◇図書館分類=書誌分類の歴史 第2巻 (共訳) 金沢文圃 関 2007.7
- ◇図書館を育てた人々 イギリス篇 (共著) 日本図書館協会 2007.9
- ◇図書館・アーカイブズとは何か (執筆) 藤原書店 2008.11
- ◇日本図書館史年表 弥生時代-1959年 (監修) 金沢文圃 閣 2012

### ●書誌

◇ローマ国立中央図書館所蔵江戸明治期刊行日本語図書目録 (編) Biblioteca Nazionale Centrale Roma 1995

#### ●博物館

◇大英博物館 岩波新書 1975

#### ●歴史

- ◇アルメニア (訳) 白水社(文庫クセジュ) 1986.11
- ◇悲劇のアルメニア 新潮社 1991.8
- ◇世界民族問題事典 (執筆) 平凡社 1995.9
- ◇赤い島―物語マダガスカルの歴史 彩流社 1997.6
- ◇聖像画(イコン)と手斧―ロシア文化史試論(訳)勉誠出版 2000.5
- ◇決闘の話 勉誠出版 2006.5

#### ●地理

- ◇探検家リチャード・バートン 新潮選書 1986.6
- ◇世界探検家事典 1,2 (編訳) 日外アソシエーツ 1997.1

#### ●芸術

- ◇春の祭典―ロシア・バレー団の人々 晶文社 1982.9
- ◇モスクワの憂鬱―スクリャービンとラフマニノフ 彩流社 1996.6
- ◇エルミタージュ─波乱と変動の歴史 (共著) 勉誠出版
- ◇夢みる人―作曲家フォスターの一生 勉誠出版 2005.1

# ●文学

- ◇Modern Japanese literature in translation: a bibliography (編) 講談社インターナショナル 1979
- ◇嵐が丘―ブロンテ家の物語 弥生書房 1982.9
- ◇Japanese Literature in Foreign Languages 1945-1990 (編) 日本書籍出版協会 1990
- ◇世界作家事典 1 ミステリ・冒険・スパイ (監訳) Gale Research 1993.11
- ◇ブロンテ家の物語 勉誠新書 2000.7
- ◇マルテンス教授の旅立ち(訳) 勉誠出版 2000.9
- ◇世界児童・青少年文学情報大事典 第1~15巻(編訳) 勉誠出版 2000~2004

#### ●随筆 · 回想

◇七十七年の回顧―喜寿を迎えて 藤野幸雄先生の喜寿を 祝う会 2008.7

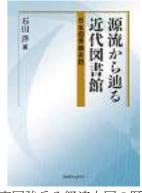
編集・城谷浩 [図情大 昭和59]

# ☆ 会員の活動拝見 ☆

# 石山洋著『源流から辿る近代図書館 日本図書 館史話』

石山洋さん(養成所昭26年卒)が『源流から辿る近代図書館日本図書館史話』を出版された。石山さんは国立国会図書館はじめ図書館界で長く活躍してこられた橘会の大先輩でいらっしゃる。本書は「日本古書通信」に2001~2008年に連載されたものをもとに、戦前の公共図書館、戦後の公共図書館、大学の図書館の3章に再構成している。幕末・明治から戦後にわたる日本の図書館史を築いた数多くの先覚者の活動が丹念に紹介されている。

本書では、日本の近代図書館史の源流を、一つの 系統とせず、大英博物館を範とした博物館の流れ、米 国の公共図書館からの無料制の流れ、京都など都市型 公共施設の流れ、新聞縦覧所や地方読書施設の流れ、 の4本の流れに着目し発展を たどっている。蕃書調所や福 沢諭吉などの大学図書館の 流れとあわせ、じつに多くの 先人の模索と貢献に光があ てられている。本書第1項、 博物館の創設者、町田久成 が、薩摩藩の名門に生まれな がら、維新後は出世を離れ文



化財保存に尽くしたように、富国強兵や経済大国の歴 史には現れない、図書館・文化の普及・発展に生きた 先覚者の苦心の活動に、深い感銘をおぼえる。

(日外アソシエーツ 2015年1月刊、本体4,500円、 ISBN 978-4-8169-2521-4)

(橘会理事 城谷浩 [図情大 昭和59])

# ☆☆☆ 母校の近況 ☆☆☆

# 「近未来図書館これくしょん」が2014年度筑波大学学園祭「雙峰祭」グランプリを受賞

2014年11月1日から3日に開催された筑波大学学園祭「雙峰祭」で、図書館情報メディア研究課の宇陀・松村研究室と附属図書館が共同で企画し中央図書館のエントランスと集会室を会場とした「近未来図書館これくしょん」が雙峰祭グランプリを受賞しました。

「近未来図書館これくしょん」では新しい図書館空間に重点を置いて、近未来の図書館をイメージしたコレクションを中心に、コンテンツを体験できるイベントを行いました。盛り沢山のメニューを多数の来場者に楽しんでいただきました。内容をご紹介します。

#### 展示

図書館集会室ではテーマ (例:公共交通機関へのあこがれ)をそれぞれ持たせた10個の「テーマ本棚」に、テーマに関連した図書を展示したほか、

「IMAGINE THE FUTURE」本棚を設け、来場者に このテーマに関連する図書を持ち寄っていただき、こ



の本棚に展示し、それらの図書を筑波大学附属図書館に寄付するという利用者参加型の展示を行いました。また、司書のキャラクターが展示の説明を行うiPadによる来場者向けの案内システム「司書ナビ」も用意しました。

#### イベント

図書館エントランスでは、東日本大震災の経験から生まれた「図書館体操」や図書の紹介を数人が対戦形式で行う「ビブリオバトル」に加えて、図書館のイメージキャラクターである「がまじゃんぱー」がiPad を使って生演奏を行う「ミニライブ」という新しい試みもありました。

図書館集会室では子供向け企画としてプロジェクタを利用した「絵本の読み聞かせ」や「絵本探しゲーム」、集会室内の絵本や本棚にヒントを仕込み、ぬいぐるみ等を脱出させる「リアル脱出ゲーム」も行われました。

エントランスと集会室の両方を使った Bibliothek-Kompanie」では、普段知っているようで知らないことを知ることができる「図書館ツアー」や図書館が好きな人同士が図書館について語り合う「語り場」が提供されました。

今回は11月2日と3日の二日間で300人を越える方が「近未来図書館これくしょん」に来場されました。来年もこの共同企画が一層充実した形で開催されることが期待されます。

(橘会理事 加藤信哉 [図短図書館 昭和51])

# ◇ 平成 26 年度の知識情報・図書館学類の状況 ◇

筑波大学情報学群 知識情報·図書館学類長 長谷川 秀彦

# 1) 在籍者数

H26.5.1 現在

区 分	人数	男女比
1 年	107	46 : 54
2 年	104	49 : 51
3 年	113	45 : 55
4 年	134	49 : 51
合計	458	47 : 53

※定員 100 名+3 年次編入 10 名

# 2) 主専攻別人数(3年次に主専攻に配属)

主 専 攻	教員	3年	4年
知識科学	15	31	47
知識情報システム	16	31	26
情報経営・図書館	17	50	61

# 3) 進路状況

H26.5.1 現在

進路	H24	H25
企業	41 (40. 6)	55 (43. 6)
図書館・公務員・教員	16 (15. 8)	29 (23. 0)
大学院進学	23 (22. 8)	23 (18. 3)
研究生	2 (2.0)	3 (2.4)
就活中	6 (5.9)	12 (9.5)
公務員試験等受験予定	9 (8.9)	3 (2.4)
フリーター	4 (4.0)	0 (0.0)
その他	0 (0.0)	1 (0.8)
合計	101 (100)	126 (100)

※カッコ内は比率 (100\*進路決定者数/定員)

# 4) 国際インターンシップ

留 学 先	H25	H26
上海図書館	0	2
トロント日本文化センター	1	1
ハワイ大学	2	0
釜山大学	1	1
ピッツバーグ大学	0	1
合計	4	5

# 5) 入試志願者数

区分	定員	H24	H25	H26
AC	5	12 (2. 4)	24 (4. 8)	18 (3. 6)
推薦	20	37 (1. 9)	35 (1.8)	23 (1. 2)
前期	60	160 (2. 7)	165 (2. 8)	172 (2. 9)
後期	15	108 (7. 2)	88 (5. 9)	119 (7. 9)
全体	100	320 (3. 2)	313 (3. 1)	333 (3. 3)
編入	10	55 (5. 5)	34 (3. 4)	48 (4. 8)

※カッコ内は倍率(志願者数/定員)

# 6) 異動

# 〇新任

松原 正樹 特任助教 (情報メディア創成) 鷲頭 美央 准教授 (図書館経営寄附講座) 照山 絢子 助教

BARYSHEV EDUARD 助教

于 海涛 助教 (国際テニュアトラック)

# ○退職 2014.3.31

林 勇吾 特任助教 (情報メディア創成)

# 第11回総会の記録

〈日時〉平成26年7月20日(日) 〈会場〉筑波大学東京キャンパス文京校舎116講義室 〈出席者〉理事・監事を含め、19名

### 〈総会議事〉

- (1) 開会挨拶(森茜会長)
- (2) 来賓·顧問紹介
  - ・杉本重雄(筑波大学教授・図書館情報メディア研究科長)
  - ・挽村裕(筑波大学教授・図書館情報メディア専攻長)
  - · 植松貞夫 (筑波大学名誉教授、跡見学園女子大学教授)

#### 杉本重雄教授より挨拶

図書館情報メディア研究科の最近の動向として-

- ・国際的なコンソーシアムへの参加
- ・アジアの図書館との連携 など

### 逸村裕教授より挨拶

- ・知識情報・図書館学類の入学・在籍者数
- 卒業生の進路状況
- ・博士課程の募集状況 など

#### (3) 議長選出

会則第19条により森会長が議長に選出された。

(3) 議事録署名人の指名

議長のほか、小池信彦、柴田大輔、近藤真智子の3名 が議事録署名人として指名、了承された。

(4) 議事(以下の議案について、いずれも異議なく了承された。)

### 1) 平成25年度事業報告及び決算報告

1. 会員現勢(平成25年度末現在)会員1688名、平成25年度中の入会0名、学生会員からの移行28名、退会11名、逝去7名(卒年・卒科別会員状況を別表で提示)

### 2. 事業報告

- (1) 筑波大学平成25年度卒業式に森会長が出席
- (2) 第10回総会の開催
- (3) 会報第15号(平成25年10月)・

第16号(平成26年3月)の発行

(4) 公開講演会の開催

(筑波大学図書館情報メディア系、同 図書館情報 メディア研究科、同 知識情報・図書館学類との 共催事業)

- (5) 全卒業生の交流会 第5回「大橘会」開催
- (6) 茗渓会本部行事の総会への参加
- (7)「筑波大学支援図書館情報学振興基金」活動
- 3. 決算報告… (別項の通り)

# 2) 第5期役員の追加選出

第5期役員の理事4名・監事1名が退任し、第6期 役員として栃谷泰文氏、小池信彦氏が新たに就任す る。円滑な会運営のためにさらに追加理事を理事会 で検討・選出する。

# 3) 平成24年度事業計画案及び予算案

#### 1. 事業計画

- (1) 会員の一層の拡充
- (2) 会報の発行
- (3) 全卒業生交流会「大橘会」(第6回)の開催
- (4) 公開イベントの開催
- (5) 筑波大学校友会及び同窓生各グループ活動と の連携
- (6) その他
- 2. 予算案… (別項の通り)

### 4) その他(逸村裕教授からの報告)

会報第16号でも紹介された、文部省図書館員教習所以来の前身校の歴史の資料を保存・研究するプロジェクトが、2014年度から科学研究費助成事業「21世紀図書館情報専門職業養成研究基盤アーカイブ構築:図書館情報専門職の再検討」として進められる。同窓会会員にも資料収集に協力して欲しい。

(橘会理事 城谷浩 [図情大 昭和59])

# ◇平成 25 年度決算報告◇

43	ス入の部	支出	の部
前年度繰越	7,644,244 円	支出	1,667,280 円
収入	1,639,986 円	次年度繰越	7,616,950 円
合 計	9,284,230 円	合 計	9,284,230 円

# 一般会計 内訳

# 収入の部

項目	決算額
前年度繰越	7,644,244 円
会費	857,500 円
維持費	426,000 円
寄附金	195.564 円
補助収入	150,000 円
雑収入	10,922 円
小 計	1,639,986 円
収入 合計	9,284,230 円

#### 支出の部

	HIP
項目	決算額
広報費	1,100 円
印刷製本費	384,670 円
通信費	376,469 円
貸借費	27,720 円
大学支援費	0円
茗渓会本部会費支払い	724,500 円
諸謝金	109,100 円
慶弔費	5,775 円
消耗品費	3,154 円
諸経費	34,792 円
支出 合計	1,667,280 円
予備費	0円
次年度費	7,616,950 円
計	9,284,230 円

# 特別会計(筑波大学支援図書館情報学振興基金)内訳

# 収入の部

項目	決算額
前年度繰越	595,233 円
雑収入 (利子)	94 円
小 計	94 円
収入 合計	595,327 円

注:支出の部「大学支援金」の内容は下記のとおり

- ・平成 25 年度図書館実習連絡費寄附
- •平成25年度卒業式祝賀会支援

# 支出の部

項目	決算額
大学支援金	157,750 円
諸経費	432 円
支出 合計	158,182 円
次年度費	437,145 円
計	595,327 円

# ◇平成 26 年度予算 一般会計◇

#### 収入の部

収入	ひとらり
項目	決算額
前年度繰越	7,616,950 円
会費	910,000 円
維持費	480,000 円
寄附金	120,000 円
補助収入	160,000 円
雑収入	20,000 円
小 計	1,690,000 円
収入 合計	9,306,950 円

注:特別会計は大学側からの要望により支出するため、予算はありません。

#### 支出の部

文出0	)部)
項目	決算額
広報費	20,000 円
印刷製本費	400,000 円
通信費	350,000 円
貸借費	30,000 円
大学支援費	100,000 円
茗渓会本部会費支払い	756,000 円
諸謝金	100,000 円
慶弔費	50,000 円
消耗品費	10,000 円
諸経費	30,000 円
支出 合計	1,846,000 円
予備費	7,460,950 円
計	9,306,950 円

# 平成 25 年度事業報告

(1) 筑波大学行事への参加

平成25年度の卒業式(学位授与式、平成26年3月25日(水))に森会長が出席した。

(2) 第10回総会の開催

茗渓会支部「図書館情報学橘会」としての第 10回総会を平成25年7月20日(土)に開催した。

(3) 会報の発行

「図書館情報学橘会会報」第 15 号 (通号 21 号) を平成 25 年 10 月に発行した。

「図書館情報学橘会会報」第 16 号 (通号 22 号) を平成 26 年 3 月に発行した。

(4) 公開講演会の開催

筑波大学図書館情報メディア系、同 図書館情報メディア研究科、同 知識情報・図書館学類との共催事業として、公開講演会開催

日時: 平成25年11月3日(日•祝)

講師:大滝則忠(国立国会図書館長、昭和43

年 東京教育大学文学部卒業)

演題:記憶の伝承と図書館私感

(5) 全卒業生交流会「大橋会」(第5回)の開催

全卒業生が集い友好を深める場として、公開 講演会終了後、幅広い世代の卒業生・在校生 が参加して懇親会を開催した。

(6) 茗渓会本部行事参加

平成25年5月30日(木)の一般社団法人茗渓 会の第2回(平成25年度)定時総会に、代議 員として森会長が出席した。

(7) 「筑波大学支援図書館情報学振興基金」図書 館情報学実習連絡費補助、卒業式祝賀会への 支援を行った。

# 図書館情報大学卒業 30 年を祝う会 (仮称) のお知らせ

1985 年 3 月卒業の図書館情報大学 2 期生は、今年で卒業 30 年を迎えます。

30 年という節目の年に懐かしいメンバーで、互いの健勝を祝う会を開催したく思います。日時のみ決定しております。会場、会費などは追ってお知らせしますので、ご関心お持ちの方は、下記までご連絡お願いいたします。

日時: 7月18日(土)17:00より

会 場:選定中(東京都内)

連絡先:神田茂(HP 非掲載)まで。

#### ◆会員の連絡先変更について◆

会員データの管理は橘会事務局が行っています。会員の皆さんで、住所等連絡先が変更になった 方は、橘会ホームページの「連絡先登録・変更フォーム」から登録変更をお願いします。

橘会ホームページ http://www.tachibana-kai.com/index.html ホームページ → 会員の皆さまへ → 連絡先登録変更フォーム

# ◆ 橘会会報へ寄稿したい方へ ◆

常時受付を行っていますので、事務局へお問い合わせください。 橘会ホームページ → 会員の皆さまへ → お問い合わせフォーム

# 平成 26 年度分会費納入のお願い

今年度会費未納入の会員におかれましては、以下の郵便振替口座または銀行口座宛に納入くださるようお願いいたします。なお、通常会員の会費は 3,500 円です。また通常会費完納者(35 回分納入済みの方)には、橘会円滑な運営のため橘会固有の協力会費 2,000 円を維持費としてお願いしています。

### (郵便振替)

(銀行振込)

口座番号 00110-5-656101

加入者名 図書館情報学橘会

ゆうちょ銀行 ○一九店 (ゼロイチキユウ店) 口座番号 0656101 預金種目 当座

口座名義 トショカンジョウホウガクタチバナカイ

※「振込依頼人名」欄に会員番号の入力をお願いします。

# ◇ 会員現勢 ◇

1. 会員数

1,672 名 (平成 27 年 2 月 1 日現在)

2. 卒業校別内訳

卒業校	人数	卒業校	人数
文図教習所	1	図短文献情	78
文図講習所	57	図大図情専	11
国図附養	1	図大図情	532
文図養成所	71	図大図情修	16
文図養成 A	159	図大博前期	11
文図養成 B	54	図大博後期	1
文図養成1B	3	筑図	145
文図養成 2 B	9	筑博図情修士	3
図短付養成	20	筑博図後期	3
図短特養課	118	筑博図情前期	4
図短図書館	308	筑知図	67
合計			1,672

3. 新入会員は平成24年の卒業生から入会金を廃止。 会費は3年間免除。

平成26年度の新入会員は4名

- 4. ご逝去 (HP 非掲載)
- 5. 退会表明者 11名

# 社団法人茗渓会支部図書館情報学橘会

〒305-8550 つくば市春日 1-2 E-mail info@tachibana-kai.com 公式ホームページ http://www.tachibana-kai.com/index.html

発行: 2015年3月1日